

大野出先生 経歴・研究業績



学歴

- 一九八〇年 東京都立小石川高等学校卒業
- 一九八四年 北海道大学文学部哲学科中国哲学専攻卒業
- 一九九五年 筑波大学大学院博士課程日本文化研究学際カリキュラム日本倫理思想史修了

博士(学術) 筑波大学、二〇〇〇年

学位論文「日本近世における老荘思想の受容…老荘思想と儒教思想との交渉をめぐって」

職歴

- 一九八五～一九八八年 川崎市立博物館準備室学芸員
- 一九九二～一九九三年 国際大学大学院国際関係学研究科助手
- 一九九四～一九九五年 目白大学人文学部非常勤講師
- 一九九五～一九九六年 筑波大学準研究員(文部技官)
- 一九九六～一九九九年 帯広大谷短期大学日本語日本文学科専任講師
- 一九九九～二〇〇七年 愛知県立大学文学部国文学科助教
- 二〇〇七～二〇〇九年 同准教授
- 二〇〇九～ 同日本文化学部国語国文学科准教授

業績

著書

『実作する古典 第八卷 老子・荘子』同朋舎出版、一九九二

〔共著〕

『論語の思想史』汲古書院、一九九四〔松川健二（編）、林羅

山『春鑑抄』と『論語』—統治論の開陳—〕担当

『日本の近世と老荘思想—林羅山の思想をめぐる—』ぺりか

ん社、一九九七

『郭店楚簡の思想史的研究三』東京大学文学部中国思想文化学

研究室、二〇〇〇〔東京大学郭店楚簡研究会（編）、日本

における三子虜斎口義〕担当

『陰陽道の講義』嵯峨野書院、二〇〇二〔林淳／小池淳一（編

著、『おみくじ（第一講）』担当

『江戸の占い』河出書房新社、二〇〇四

『元三大師百籤和解・附解説』私家版

『日本近世における老荘思想の解釈に関する研究』私家版、二

〇〇六

『江戸町人の研究 第六卷』吉川弘文館、二〇〇六〔西山松之助

（編）、『おみくじと侍』担当

『日本古典への誘い一〇〇選Ⅰ』東京書籍、二〇〇六〔諏訪春

雄／芳賀徹／山折哲雄／小松和彦（監修）、林羅山「羅山

先生文集」担当

『元三大師御籤本の研究—おみくじを読み解く—』思文閣出

版、二〇〇九

『老子の毒 荘子の非常識』風媒社、二〇〇九

『菜根譚・図解雑学 絵と文章でわかりやすい！』ナツメ社、二

〇一〇〔大野出（編著）松井光彦／三浦雅彦（著）

『神さまが嫌う最悪参拝 仏さまが喜ぶ最良参拝』講談社〔講談

社+α新書、二〇一二

論文

『林羅山の老子観の推移』『日本文化研究』二、一九九〇

『林羅山の『老子口義』受容』『日本思想史学』二三、一九九一

『林羅山『野槌』における仏老批判』『中国哲学』二〇、一九九

一

『石田梅岩と老荘思想』『日本思想史学』二四、一九九二

『林羅山の孔老問答解釈』『倫理学』一〇、一九九二

『田舎荘子』の思想的背景』『中国—社会と文化—』八、一九

九三

『林羅山『老子抄解』における「無心」の思想』『中国哲学』二

四、一九九五

『林羅山の老子観』『哲学・思想論集』二一、一九九六

『道春点『老子口義』と徳倉昌堅』『近世文芸』六九、一九九九

『元三大師御籤諸鈔』考』『日本語と日本文学』三二、二〇〇

一

「元三大師御籤本の思想」『倫理学年報』五〇、二〇〇一

「おみくじと天道…元三大師御籤注解考」『日本思想史学』三三、二〇〇一

「朱震の易学〔含「太極者陰陽之本」翻訳（抄）〕」『愛知県立大学文学部論集 国文学科編』五〇、二〇〇二「狩野一三／日冲敦子（訳）」

「思想史研究とメディア―討論を通して―（特集 二〇〇三年度大会シンポジウム 思想を語るメディア―近世日本を例として―）」『日本思想史学』三六、二〇〇四

「実学としての『老子庸齋口義』」『国際東方学者会議（東方学会）シンポジウムⅢ資料集』、二〇〇三

「月と占い」『國文學』五二―三、二〇〇七

「日本における靈籤の受容と展開に関する一考察―靈籤からおみくじへ―」『中国哲学』三五、二〇〇七

「元三大師御籤本における「道具」という判断項目―そこから見えてくる、おみくじ武家由来の可能性―」『説林』五七、二〇〇九

「占い・おみくじをめぐる学際的研究」『愛知県立大学文学部論集 社会福祉学科編』五七、二〇〇九 松宮朝／大野出（共著）

その他

「留学生教育に関する一提言」『目白大学高等教育研究』一、一

九九五

「学芸員育成に関する一提言―本学学芸員基礎資格コースの現状と課題―」『帯広大谷短期大学紀要』三五、一九九八

「問題提起 学芸員課程の現状と課題」『史潮』四七、二〇〇〇

「日本文化教育実践試論」『日本文化研究』一二、二〇〇一

「シンポジウム「はつする言葉」の企画に際して（特集）シンポジウム「はつする言葉（一）」『愛知県立大学文学部論集 国文学科編』五三、二〇〇五

「老子のことば（全八一回）」『荘子のことば（全一〇九回）』

「中日新聞」文化面「ひととく」連載、二〇〇五・二―二〇〇五・一―

「のぞき見る未来―おみくじと未来―」『平成一九年度愛知県立大学学長特別研究費報告書 「未来」をめぐる学際的研究』、二〇〇八

「天道」論…「天道」とは、いったい何だったのか（二〇一一年度大会パネルセッション）『日本思想史学』四六、二〇〇一―四 大野出／阿部光磨／加藤みち子

「思想史としてのおみくじ（二〇一三年度大会パネルセッション）『日本思想史学』四六、二〇一四

「おみくじをひく」『高翔…自動車技術会関東支部報』六七、二〇一七

口頭発表・講演等

- 「林羅山の『老子口義』受容」日本思想史学会、一九九〇
- 「『田舎荘子』の知足安分論」日本近世文学会、一九九一
- 「石田梅岩における老荘思想受容」日本思想史学会、一九九一
- 「道春点『老子口義』と徳倉昌堅」日本近世文学会、一九九八
- 「日本近世における林希逸『老子口義』加点本」『古典学の再構築』研究会、二〇〇〇
- 「おみくじ小考」江戸町人研究会、二〇〇〇
- 「おみくじの思想」倫理学研究会、二〇〇〇
- 「元三大師御籤本考」筑波大学国語国文学会、二〇〇〇
- 「元三大師御籤注解考」日本思想史学会、二〇〇〇
- 「おみくじ再考」江戸町人研究会、二〇〇一
- 「おみくじと太陽信仰」江戸町人研究会、二〇〇二
- 「おみくじと陰陽道―附・伯道上人由来考―」江戸町人研究会、二〇〇三
- 「おみくじの受容者層」江戸町人研究会、二〇〇三
- 「思想を語るメディア―近世日本を例として―」二〇〇三年度日本思想史学会シンポジウム(司会)、二〇〇三
- 「実学としての『老子膚斎口義』」東方学会シンポジウム(司会)および発表、二〇〇三
- 「林希逸『三子膚斎口義』と東アジア三国の近世文化」国際東方學者会議(東方学会)第四八回國際東方學者會議シンポジウム(司会)および発表、二〇〇三
- 「占いとジェンダー―おみくじの視点から―」江戸町人研究会、二〇〇六
- 「寛永寺旧蔵『百籤指南』考―彦根城博物館史料調査報告として―」江戸町人研究会、二〇〇七
- 「御籤と御籤本―未解決部分に関する幾つかの仮設―」社会文化史学会、二〇〇七

その他寄稿、講演、テレビ・ラジオ出演等がありますが、完璧を期すことが叶いませんことを申し添えます。